

# 2026年3月期 第1四半期決算説明資料

FY2026 Q1 Financial Results Presentation



**AKIBA** HOLDINGS

2025.8.12

# CONTENTS

## 【2026年3月期 第1四半期決算説明資料】

01. トピックス・概況
02. 2026年3月期 第1四半期決算概要
03. 2026年3月期 通期連結業績予想
04. 事業セグメント別概況

## 【参考資料】

会社概要・沿革

2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

財務情報、株式情報

※資料中の数字の単位は、別途指定ない限りすべて百万円

01

トピックス・概況  
TOPICS・Overview

# 1. トピックス：2026年3月期 第1四半期決算

## 2026年3月期 第1四半期は大幅な増収増益で着地、通期業績予想に対し順調なスタート

メモリ、HPC事業で増収、  
営業利益は前年同四半期比  
262.3%を達成

メモリ事業は需要拡大を  
捉え黒字転換、HPC事業  
は大型案件で大幅増益

業績予想に対して1Q業績  
は売上・利益ともに好調  
に推移

当第1四半期は、売上高4,373百万円（前年同四半期比120.0%）、営業利益101百万円（同262.3%）と大幅な増収増益を達成  
メモリ事業、HPC事業の前年同期に対する増収・増益が連結業績を牽引

メモリ事業は、Windows 11への移行需要を背景に売上高が前年同四半期比147.2%と大きく伸長し、営業黒字に転換しました。また、HPC事業においても大型案件の受注により、売上高・利益ともに前年同期を大幅に上回る水準を確保し、全体の利益向上に大きく貢献しました。

当第1四半期の業績は、各事業において当初計画に対して順調に進捗  
2025年5月14日公表の2026年3月期通期の連結業績予想に現時点での変更はありません。

## 1. 概況：2026年3月期 第1四半期決算

メモリ・HPC事業の牽引により、売上高は前年同四半期比120%の大幅増収  
通信建設テック事業も安定的に推移し、営業利益は同262%と順調なスタート

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続く一方、物価上昇や不安定な為替相場など、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような環境の中、当社グループは、Windows 11への移行を背景としたメモリ事業の需要拡大や、HPC事業における大型案件の受注進展などが寄与し、売上高は4,373百万円（前年同四半期比120.0%）、営業利益は101百万円（同262.3%）と、大幅な増収・増益となりました。

各事業において当初計画に対して順調に進捗しており、通期の連結業績予想達成に向けて好調なスタートを切ることができました。今後も引き続き、事業基盤の強化と収益性の向上に取り組んでまいります。

	2025/3 1Q実績	2026/3 1Q実績	前年同 四半期比	2026/3 業績予想	前期比
売上高	3,644	4,373	120.0%	18,900	103.4%
営業利益	38	101	262.3%	660	92.2%
経常利益	31	99	309.8%	600	90.6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	27	64	237.3%	400	356.3%
一株当たり 四半期純利益	2.95円	7.00円		43.55円	

※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません

02

2026年3月期 第1四半期通期決算概要  
FY2026 Q1 Financial Results Summary

## 2. 2026年3月期第1四半期決算概要：事業セグメント



メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット  
株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等  
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）  
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併



H P C  
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

## 2. 2026年3月期第1四半期決算：事業セグメント別の概況

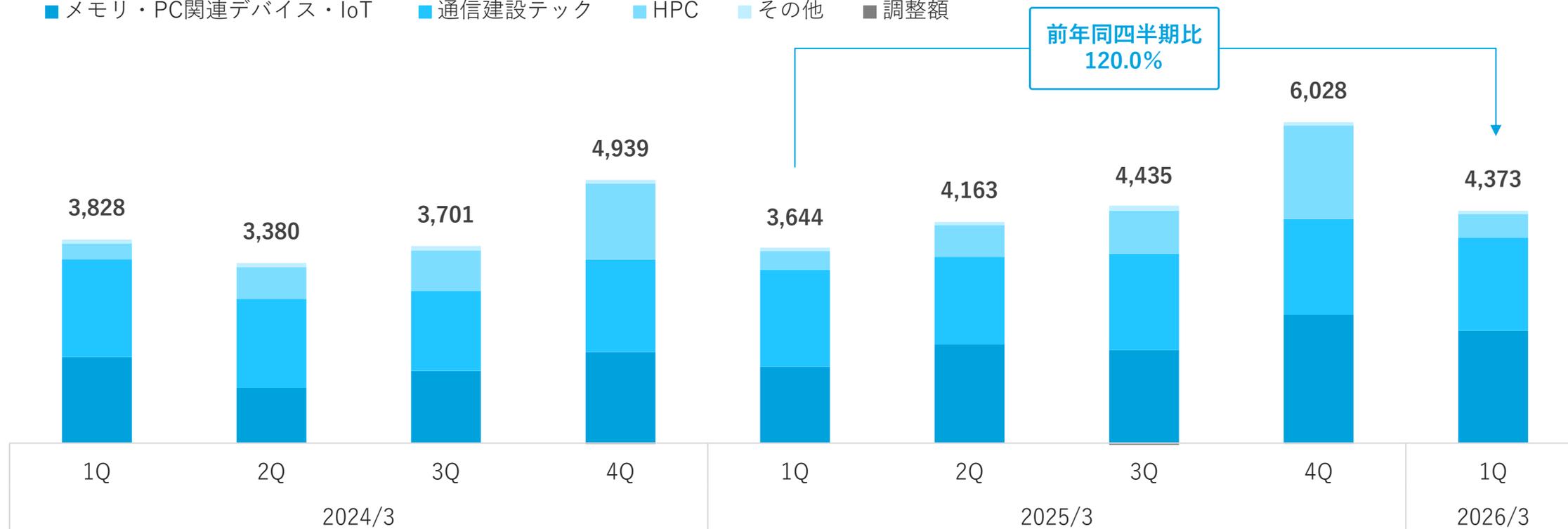
	売上高	前年同四半期比	営業利益	前年同四半期比	トピックス
連結	4,373	120.0%	101	262.3%	
メモリ・PC関連 デバイス・IoT	2,118	147.2%	5	前期は△55 の損失計上	Windows11移行需要やメモリ品薄感を 背景に売上高大幅伸長で大型案件も継続 受注で営業利益黒字確保
通信建設テック	1,752	98.4%	33	54.1%	キャリア向け案件で安定した工事件数確保、 新規領域も好調に推移し、前年同期並みの 売上・利益水準を確保
H P C (高性能科学技術計算機)	435	120.2%	37	145.9%	継続的な顧客接点から大型案件の受注が 売上・利益に寄与。競争環境厳しい中で 増収・増益確保
その他 (旅館ほか)	67	109.8%	25	341.1%	閑散期中、キャンペーン実施等により一 定の集客維持。オペレーション改善継続し 費用抑制(全社費用等の調整額を含む)

## 2. 2026年3月期第1四半期決算：連結売上高

メモリ事業は需要拡大を捉え大幅増収、HPC事業も大型案件寄与で  
1Qの連結売上高は前年同四半期比120.0%を達成

### 連結売上高

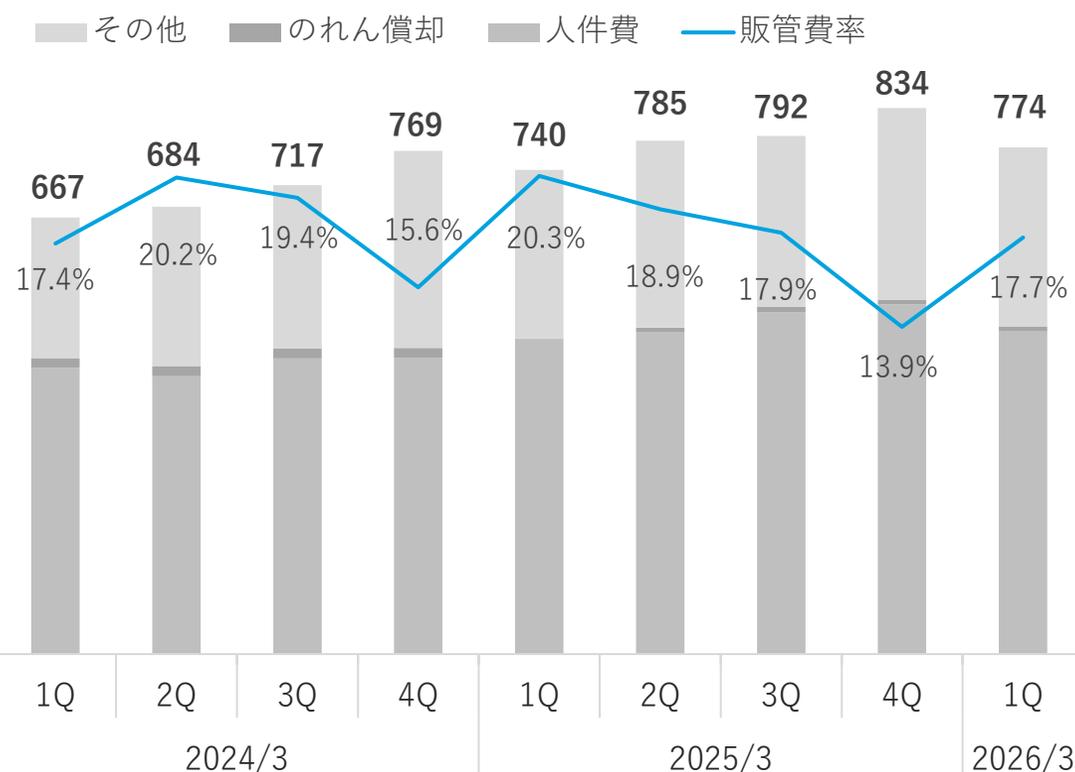
■ メモリ・PC関連デバイス・IoT ■ 通信建設テック ■ HPC ■ その他 ■ 調整額



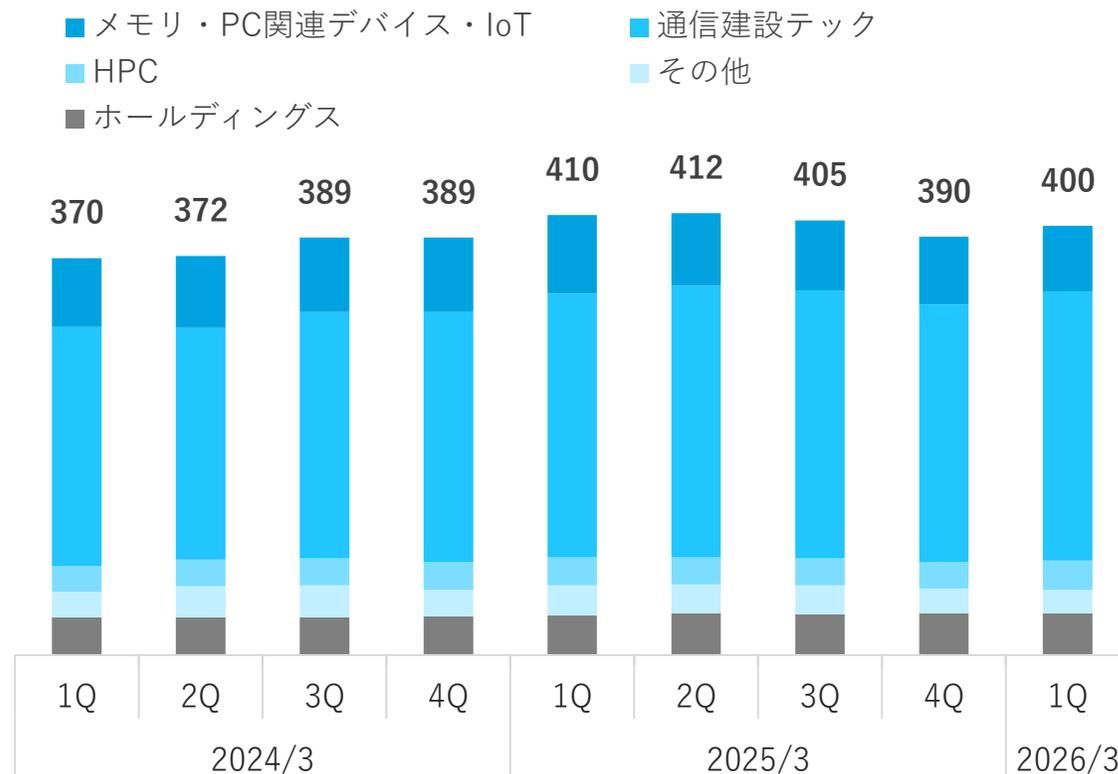
## 2. 2026年3月期第1四半期決算：販売費及び一般管理費・役職員数

事業成長に向けた投資を継続し販管費は前年同四半期比で増加したものの、増収効果により前年同四半期比で販管費率は改善、収益性向上に貢献

販売費及び一般管理費（百万円）



役職員数（人）



## 2. 2026年3月期第1四半期決算：連結貸借対照表

### 売掛債権の回収と利益計上により、有利子負債の削減と現預金の増加に寄与

- 売上債権の回収が進んだことにより904百万円減少し、現預金は前期末と比較して468百万円増加し安定した水準を維持
- 長期借入金の返済が進み、負債合計は前期末と比較して346百万円減少
- 1Qにおいて純利益64百万円を計上したことに伴い、利益剰余金が増加。自己資本比率も1.0pt改善し26.9%に

連結貸借対照表

	2025/3末	2025/6末	差異	前期末比
流動資産	12,657	12,372	-284	97.8%
現預金	5,369	5,837	468	108.7%
売掛債権	5,243	4,338	-904	82.7%
棚卸資産	1,428	1,536	107	107.5%
固定資産	970	981	10	101.1%
資産合計	13,627	13,354	-273	98.0%
流動負債	6,817	6,690	-126	98.1%
短期借入金	3,650	3,648	-2	99.9%
一年以内返済予定長期借入金	993	968	-24	97.5%
一年以内償還予定社債	60	60	-	100.0%
買掛金	1,403	1,436	33	102.4%
固定負債	2,832	2,612	-219	92.3%
長期借入金	2,397	2,172	-224	90.6%
社債	240	240	-	100.0%
負債合計	9,649	9,303	-346	96.4%
株主資本	3,531	3,595	64	101.8%
資本金	100	100	-	100.0%
利益剰余金	2,650	2,714	64	102.4%
負債・純資産合計	13,627	13,354	-273	98.0%

## 2. 2026年3月期第1四半期決算：連結損益計算書

### 1Qの連結売上高はメモリ・HPC事業が牽引し前年同四半期比120.0% 大幅な増収効果で各段階利益も伸長し、収益性が大きく改善

- メモリ事業においてWindows11への移行需要を捉え売上が大幅に増加したことに加え、HPC事業での大型案件受注も寄与し、売上高は前年同四半期比120.0%となりました。  
この増収効果により、売上総利益も同112.5%と伸長
- 新規連結影響及び事業基盤の強化に向けた投資を継続により販管費は増加したものの、増収効果により吸収し、営業利益は前年同四半期比262.3%となる101百万円を確保
- 営業利益の増加に伴い、経常利益は前年同四半期比309.8%、親会社株主に帰属する当期純利益は同237.3%の64百万円となる

#### 連結損益計算書

	2025/3 1Q	2026/3 1Q	差異	前年同四半期比
売上高	3,644	4,373	728	120.0%
売上原価	2,865	3,496	631	122.0%
売上総利益	778	876	97	112.5%
販売費及び一般管理費	740	774	34	104.7%
営業利益	38	101	62	262.3%
営業外収益	4	22	18	541.1%
営業外費用	10	24	13	228.4%
経常利益	31	99	67	309.8%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	-
税金等調整前四半期純利益	31	99	67	309.8%
法人税等合計	0	26	27	-
四半期純利益	32	72	40	222.3%
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	8	2	149.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	27	64	37	237.3%

# 03

## 2026年3月期 通期連結業績予想 FY2026 Consolidated Earnings Forecast

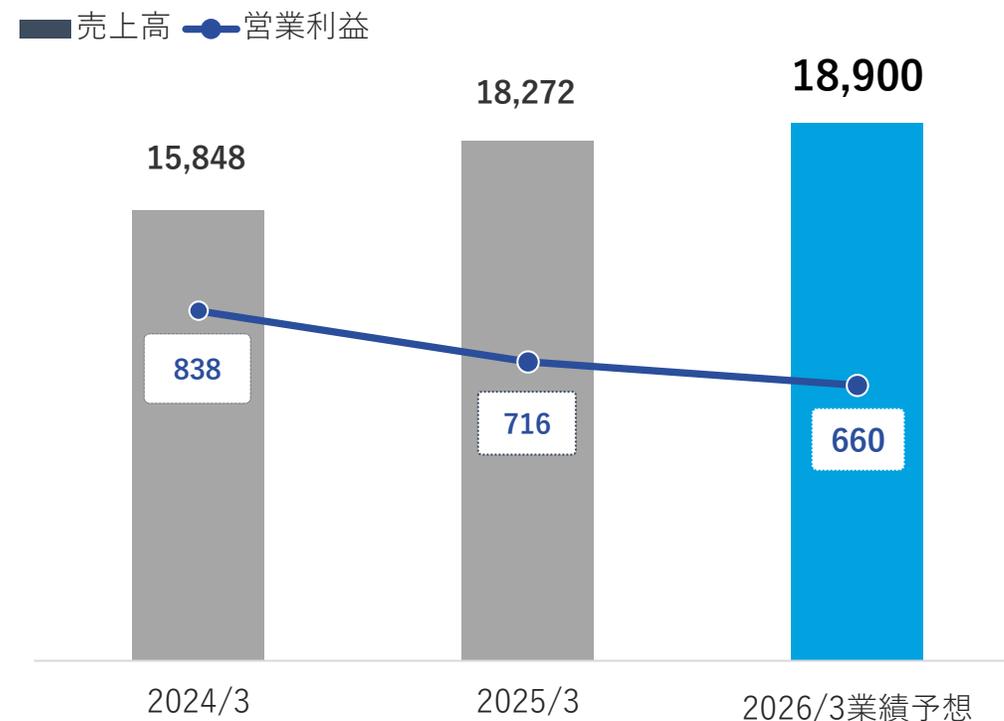
### 3. 2026年3月期 通期連結業績予想

主力事業の継続的な成長を目指し、戦略投資・ガバナンス強化を推進  
各事業における新領域への取り組み推進し、継続的な増収を目指す

#### 通期連結業績予想の概要

	2025/3 連結業績 (実績)	2026/3 業績予想	前期比
売上高	18,272	<b>18,900</b>	103.4%
営業利益	716	<b>660</b>	92.2%
経常利益	662	<b>600</b>	90.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	112	<b>400</b>	356.3%

- 為替動向や物価上昇による個人消費への影響等により、不透明な状況は継続する中、事業拡大に向けた戦略投資やガバナンス強化を推進
- 各事業とも継続的な成長を目指し、組織体制の強化や各種取り組みを推進し、2025年3月期に対して増収計画とする
- 2026年3月期1Qの好調な進捗を踏まえつつ、通期業績予想の達成に向けて各種施策を推進



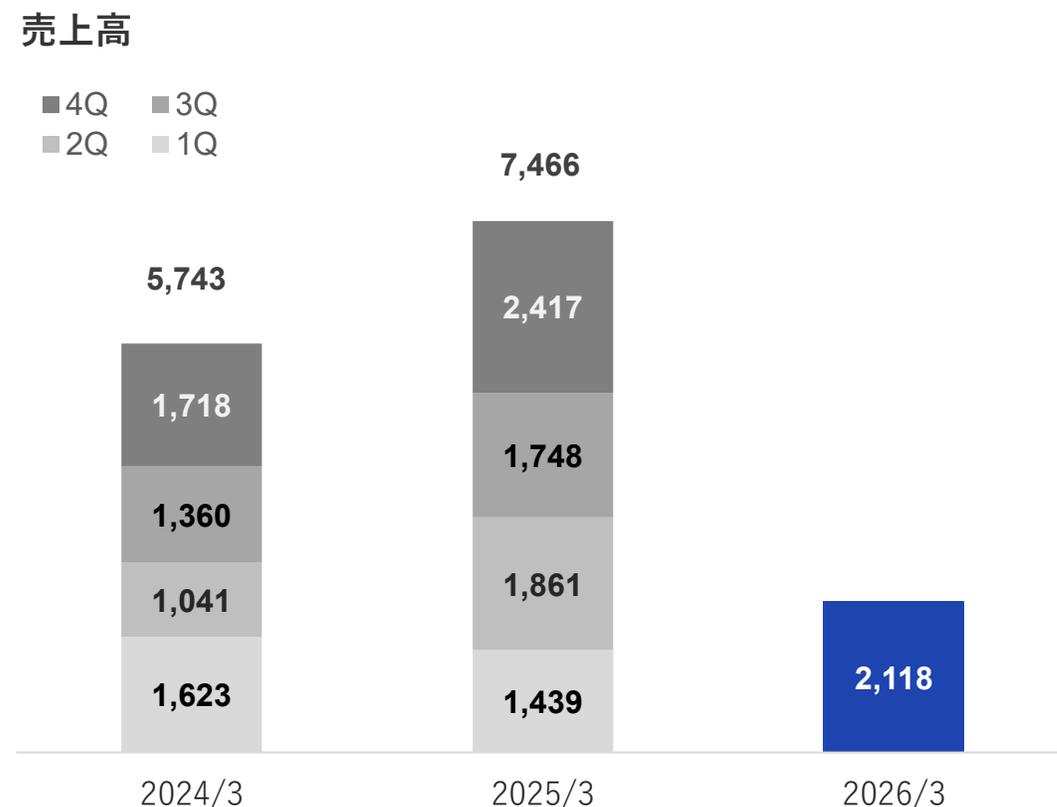
# 04-1

## 事業セグメント別概況－メモリ・PC関連デバイス・IoT事業－ Overview by Business Segment

## 4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：売上高

### Windows11移行需要を追い風に大幅増収、大型案件受注も継続し売上を牽引

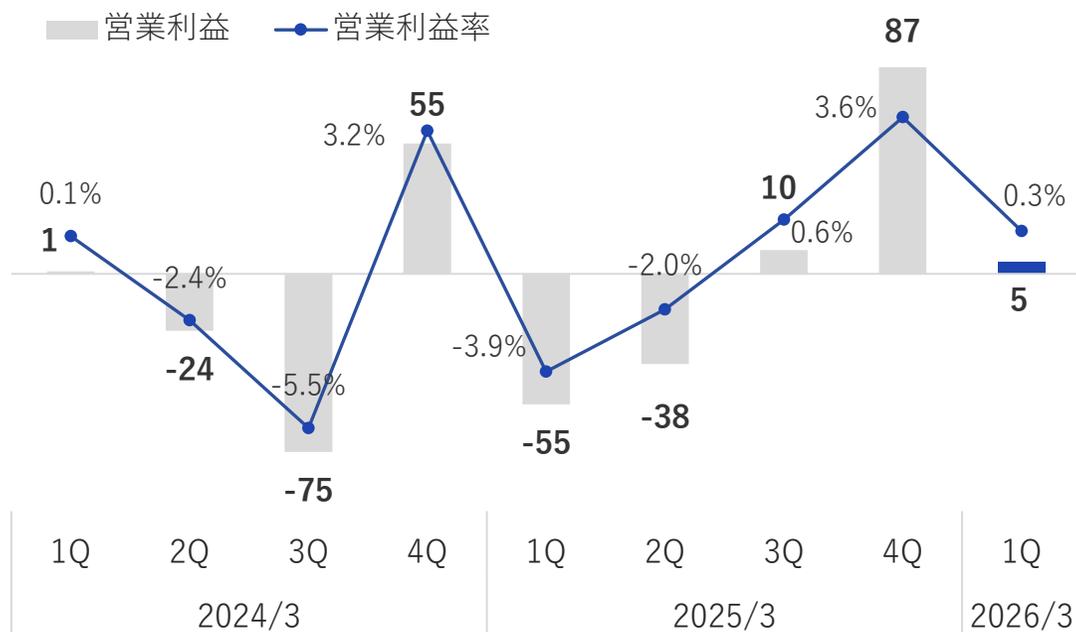
- 法人市場におけるWindows 11への移行需要が本格化したことに加え、一部メモリ規格の生産終了や価格上昇を背景とした先行手配の動きも活発化し、売上は大幅に増加しました。
- IoT事業は、一部案件の検収時期が翌四半期以降にずれ込んだ影響はあったものの、新規商材やエッジAI端末の開発は計画通り進捗しており、将来の成長に向けた基盤構築を着実に進めています。



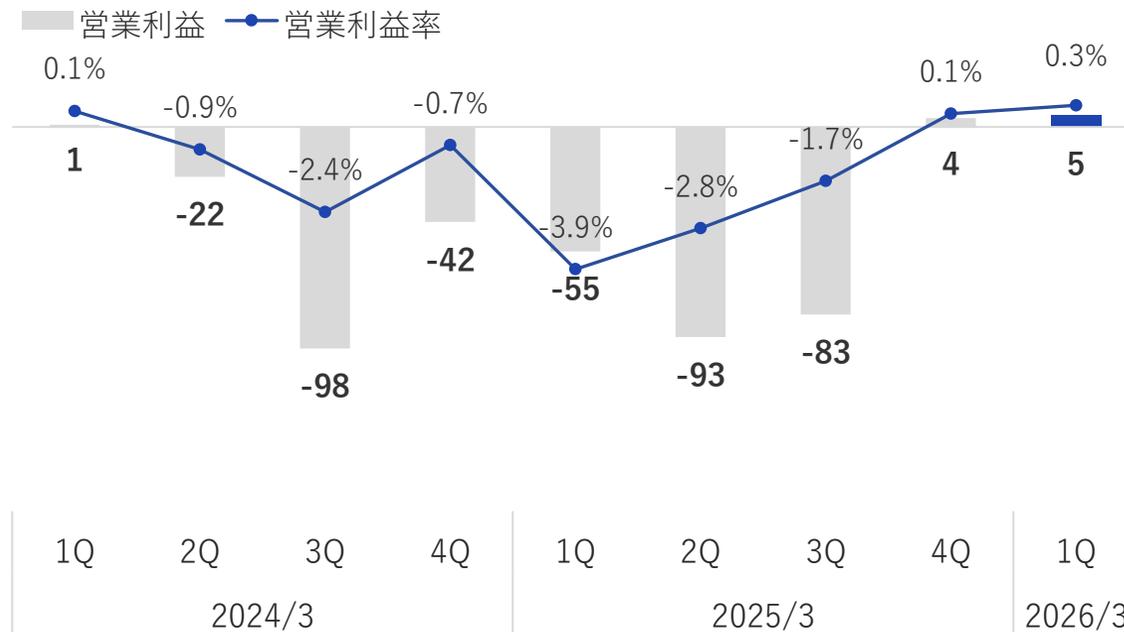
## 4-1. セグメント別概況 -メモリ・PC関連デバイス・IoT-：営業利益 会計期間・累計期間

大幅な増収効果で営業黒字に転換、前年同四半期と比較して収益性が大きく改善

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- Windows11への移行に伴う法人需要を的確に捉え売上高が大幅に伸長したことに加え、前期から取り組んできた在庫圧縮が進み評価損が抑制されたことも寄与し、前年同期の55百万円の損失から黒字転換
- IoT事業においても、各種受託開発案件や新製品開発が順調に進捗し利益に貢献。将来の成長に向けた投資を継続しつつ、セグメント全体の収益性確保に努める

プレスリリース 2025.7.23

## ロームと完全自立型AIソリューション「Solist-AI™」に関するパートナー契約を締結

～ エッジデバイス単体でAI処理を実現、当社製品へのAI機能搭載を加速 ～



「Solist-AI™」は、ローム株式会社の商標または登録商標です。

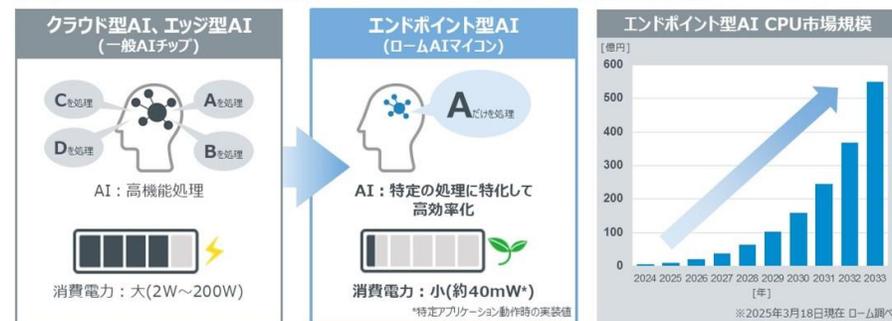
### 契約の背景と目的

近年、製造業やインフラ分野をはじめとしたさまざまな現場において、リアルタイム性やセキュリティ、通信環境への要求が増える中、クラウドを介さずにAIを活用できる「エンドポイント型AI」への関心が高まっています。こうした背景のもとに、当社ではオンデバイスでAI処理を完結できるSolist-AI™を導入することで、通信インフラに頼らず、機器の異常兆候や劣化状態をその場で即座に検知することが可能となり、より迅速かつ効率的な設備管理・製品保守の実現を目指しております。本契約により、当社の自社製品や受託開発製品において、応答速度・セキュリティ性・柔軟性に優れたAIソリューションの提供を加速させ、お客様に新たな価値をご提案してまいります。

### エッジコンピューティング向け完全自立型AIソリューション「Solist-AI™」

Solist-AI™は、ロームがエッジコンピューティング分野に向けて提供するオンデバイスAIソリューションに与えられるブランド名称です。クラウドサーバーやネットワークに依存せず、エッジデバイス単体でリアルタイムの学習・推論処理を可能にすることで、AIイノベーションの拡大に貢献します。通信環境のない現場や、高い応答性・セキュリティが求められる産業機器・民生機器においても、センサー接続だけで高度な状態監視や劣化予測などのAI機能を容易に実装することが可能となります。

従来のAI活用課題への対応として、エンドポイントで処理するAI需要の増加



クラウド型AI、エッジ型AIのオーバースペック問題を解消(機器故障の予兆検知用途)

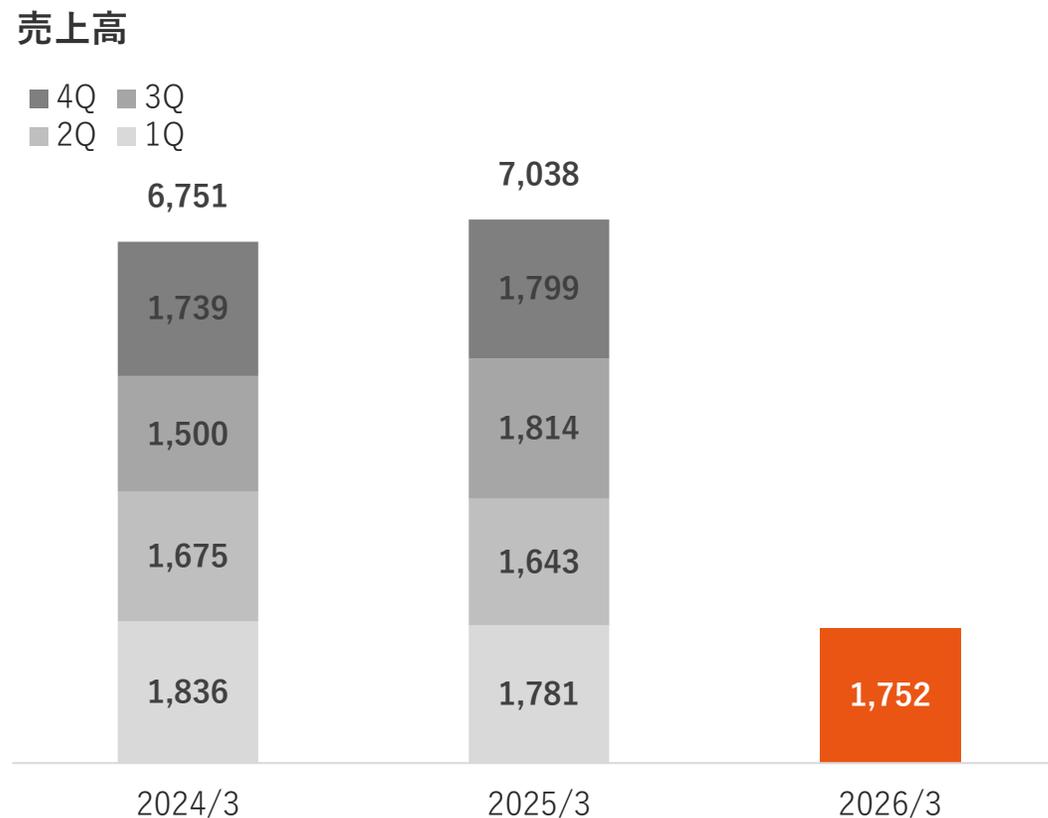
04-2

事業セグメント別概況－通信建設テック－  
Overview by Business Segment

## 4-2. セグメント別概況 -通信建設テック-：売上高

### 主力工事の安定受注と新規領域の着実な拡大が寄与し、セグメント売上は前年並みで着地

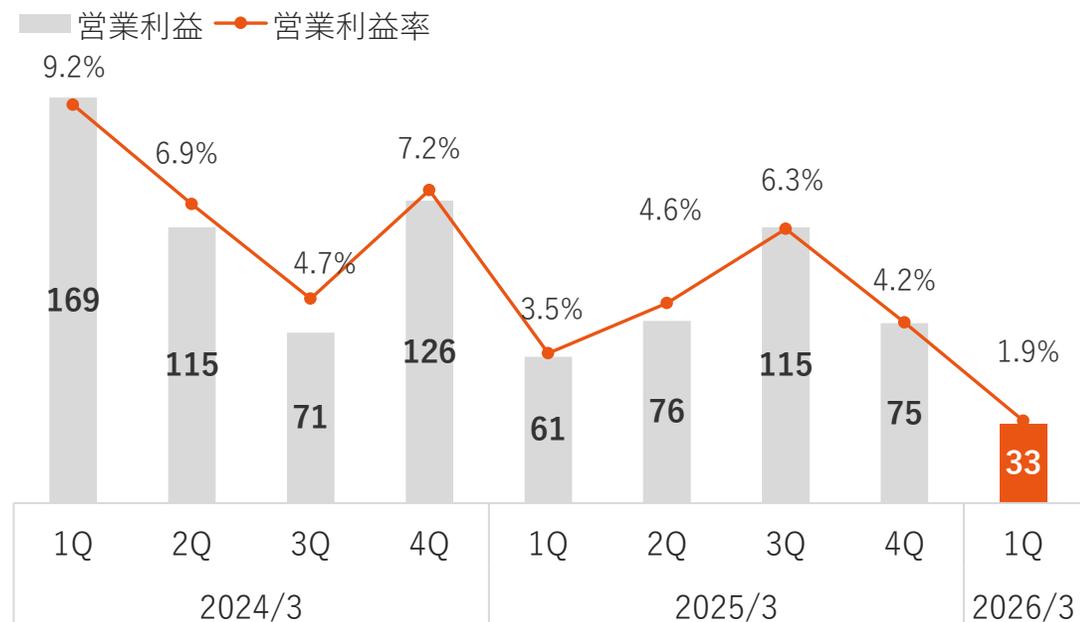
- 主力である通信キャリア向けの屋内電波対策工事において、顧客との強固な関係性を背景に安定的な工事完了件数を確保し、引き続き売上高に貢献
- サービスロボット関連事業やクラウド型カメラ設置事業といった新規領域の事業も拡大基調となり、コンタクトセンター事業も堅調に推移し、セグメントの多角的な収益構造を支える要因に
- 前年同期に計上した再生可能エネルギー関連の大型案件の反動減があったものの、上記、主力工事と新規領域の堅調な進捗がそれを十分に補い、セグメント全体では前年並みの売上高進捗に
- ブランチテクノは、中部エリアにおける通信キャリアの基地局関連工事に関して、大型案件の順調な進捗により完工時期の前倒しなどが進んだことにより、売上高・営業利益ともに好調に推移  
※2024年7月からの連結開始のため、当四半期(2025年4月～6月)は新規連結に伴う業績寄与



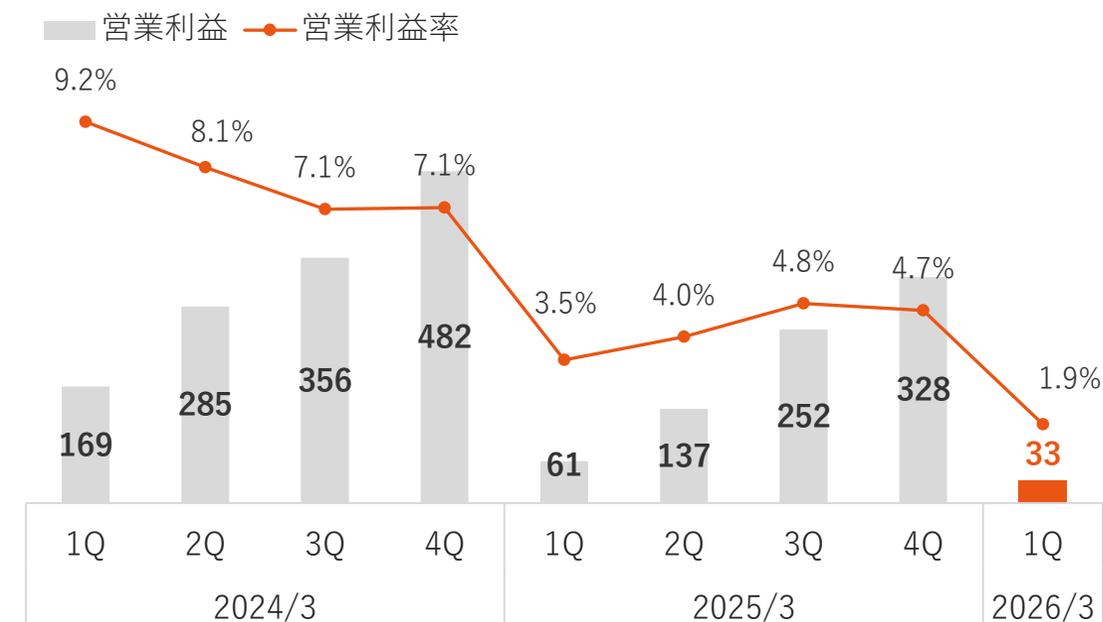
## 4-2. セグメント別概況 -通信建設テック- : 営業利益 会計期間・累計期間

競争環境の変化や成長投資が影響し減益となるも、一定の利益水準は確保

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 主力である通信キャリア向け屋内電波対策工事の工事完了数は好調に推移し、競争環境変化による影響はあるものの増収により売上総利益も増加
- ブランチテクノの新規連結影響及び事業基盤の強化を目的とした成長投資を継続したことにより販管費が増加
- コンタクトセンター業務、アルコールチェック代行サービス等の堅調な推移が収益基盤の安定化に貢献

## 4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

プレスリリース

2025.4.24

# 「通信建設企業」から「社会インフラ構築企業」へ大きく進化

株式会社バディネットが、2024年12月27日開催の取締役会におきまして決議しておりました、子会社である株式会社リーバンの吸収合併を2025年3月31日に完了いたしました。

今回の経営統合により、従来の通信建設領域に加えて、再生可能エネルギー関連工事と総合土木工事まで事業の領域を広げるとともに、全国の施工・保守体制と各種建設業許可の増強を実現しています。この施工範囲の拡大と体制の強化によって、バディネットは『通信建設企業』から『社会インフラ構築企業』へ大きく進化いたします。



### 「通信建設企業」から「社会インフラ構築企業」へ大きく進化

#### ポイント① ソリューション



通信建設領域に加え、  
再生可能エネルギー関連工事と  
総合土木工事まで事業の領域を拡大

#### ポイント② 施工・保守体制



全国293拠点1,040名の  
施工/保守部隊が、  
通信建設を中心とした  
社会インフラ構築に関する  
需要に対応

#### ポイント③ 建設業許可



「電気工事業、電気通信工事業」に加え、  
「土木工事業、とび・土工工事業、  
管工事業、舗装工事業、  
塗装工事業」を新たに取得

「社会インフラ構築企業」への進化 3つのポイント

プレスリリース詳細【バディネットHP】

<https://www.buddynet.jp/press-release/socialinfrastructure-250424/>

## 4-2. セグメント別概況 -通信建設テック：ニューストピックス

### 「社会インフラ構築企業」への進化 3つのポイント

#### 1. ソリューション



#### BEFORE

**通信建設**

電気・電気通信 施工/工事  
IoT・ロボット・EV・カメラ・サイネージ 導入/設置  
保守メンテナンス

**通信建設をサポートするソリューション**

コンタクトセンター  
プロジェクト支援  
ハードウェア・ネットワーク機器 開発

#### AFTER

##### 社会インフラ構築

**通信建設**

電気・電気通信 施工/工事  
IoT・ロボット・EV・カメラ・サイネージ 導入/設置  
保守メンテナンス

再生可能エネルギー ●

総合土木工事 ●

**社会インフラ構築をサポートするソリューション**

コンタクトセンター  
プロジェクト支援  
ハードウェア・ネットワーク機器 開発

#### 2. 施工・保守体制

- 全国 293 拠点
- 1,040 名の施工/保守部隊
- 24 時間 365 日対応
- 全国3拠点のコンタクトセンター



#### BEFORE

全国198拠点  
792名の施工/保守部隊

北海道：5拠点 東北：13拠点  
北陸：8拠点 関東：78拠点  
東海：25拠点 近畿：30拠点  
中国：13拠点 四国：3拠点  
九州：20拠点 沖縄：3拠点

#### AFTER

全国293拠点  
1,040名の施工/保守部隊

北海道：9拠点 東北：19拠点  
北陸：11拠点 関東：88拠点  
東海：36拠点 近畿：44拠点  
中国：40拠点 四国：10拠点  
九州：31拠点 沖縄：5拠点

#### 3. 施工・建設業許可

#### BEFORE

東京都知事許可(特-5)第140501号  
電気工事業、電気通信工事業

#### AFTER

国土交通大臣許可(特-6)第29100号  
土木工事業、とび・土工工事業、  
電気工事業、電気通信工事業

国土交通大臣許可(般-6)第29100号  
管工事業、舗装工事業、塗装工事業

04-3

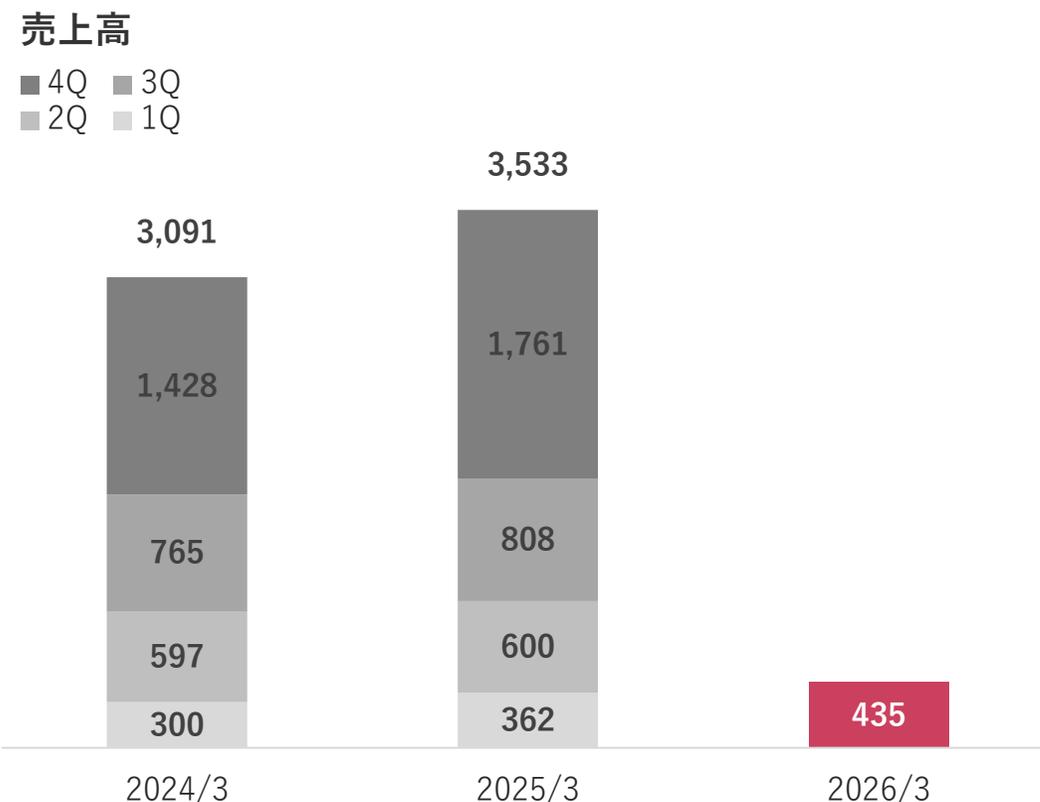
事業セグメント別概況－HPC事業－  
Overview by Business Segment

### 4-3. セグメント別概況 -HPC事業- : 売上高

## 大型案件の受注獲得が寄与し、売上高は前年同期比20.2%増を達成

■ 各種学会やメーカーと連携したセミナー開催など、継続的な顧客接点の拡大が大型案件の受注に繋がりました。

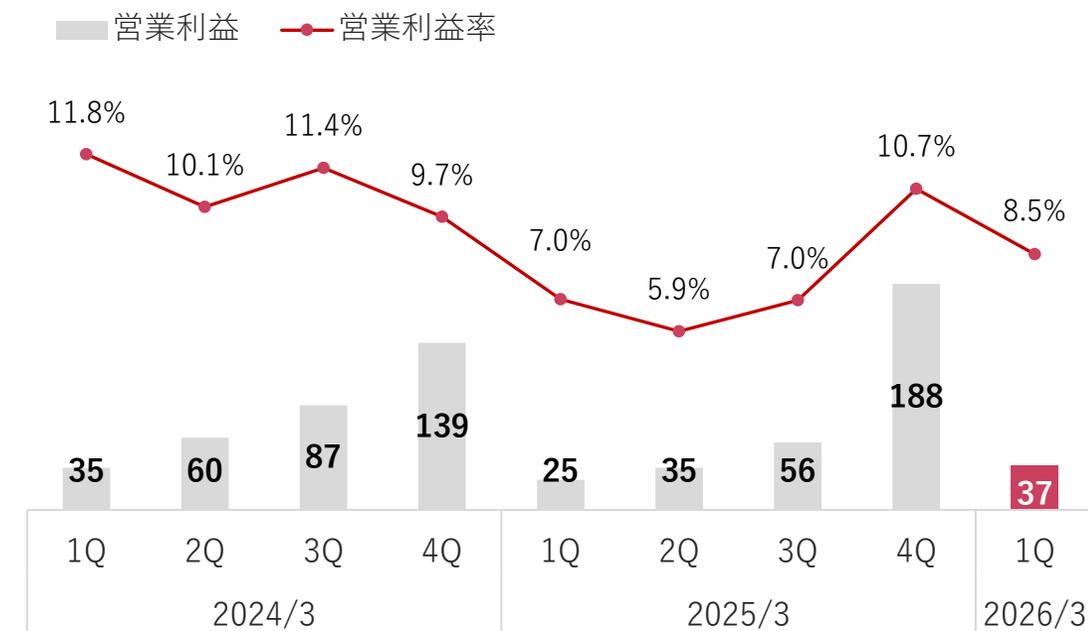
■ この結果、売上高は前年同四半期を大きく上回り、通期業績の達成に向けて好調なスタート



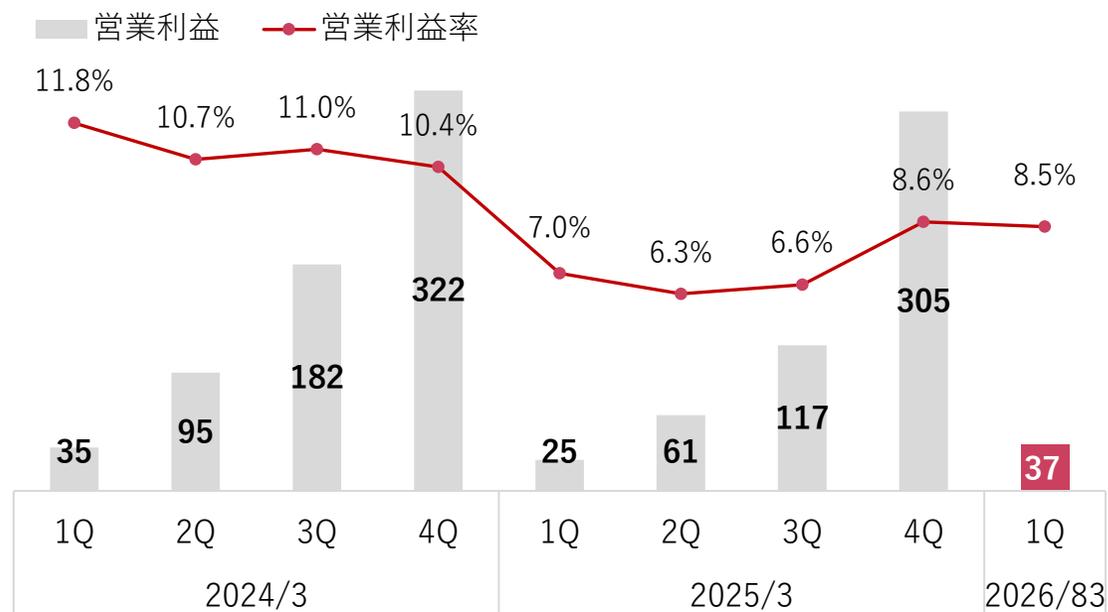
### 4-3. セグメント別概況 -HPC事業- : 営業利益 会計期間・累計期間

## 売上拡大が利益を押し上げ、厳しい競争環境下で大幅な増益を達成

営業利益 会計期間



営業利益 累計期間



- 各種学会やセミナー開催等を通じた継続的な販促活動が大型案件の受注に繋がり、受注構成の改善も進んだ結果、利益が大幅に増加しました。
- 価格競争の激化など依然として厳しい事業環境ではあるものの、販売活動の効率化等により、前年同期を大幅に上回る利益を確保しました。

### 4-3. セグメント別概況 -HPC事業- : ニューストピックス

学会・展示会への参加  
【機器展示】

JapanVis 2025

2025年7月実施

第27回理論化学討論会

2025年7月実施

第28回 画像の認識・理解シンポジウム MIRU2025

2025年7月実施

第34回光子電子原子衝突国際会議

2025年7月実施

キャンペーン/商品取扱開始

NVIDIA DGX Spark

2025年5月～

NVIDIA RTX PRO 6000、RTX 6000 Ada アカデミックキャンペーン

2025年7月～

04-4

事業セグメント別概況－その他事業(旅館事業)－  
Overview by Business Segment

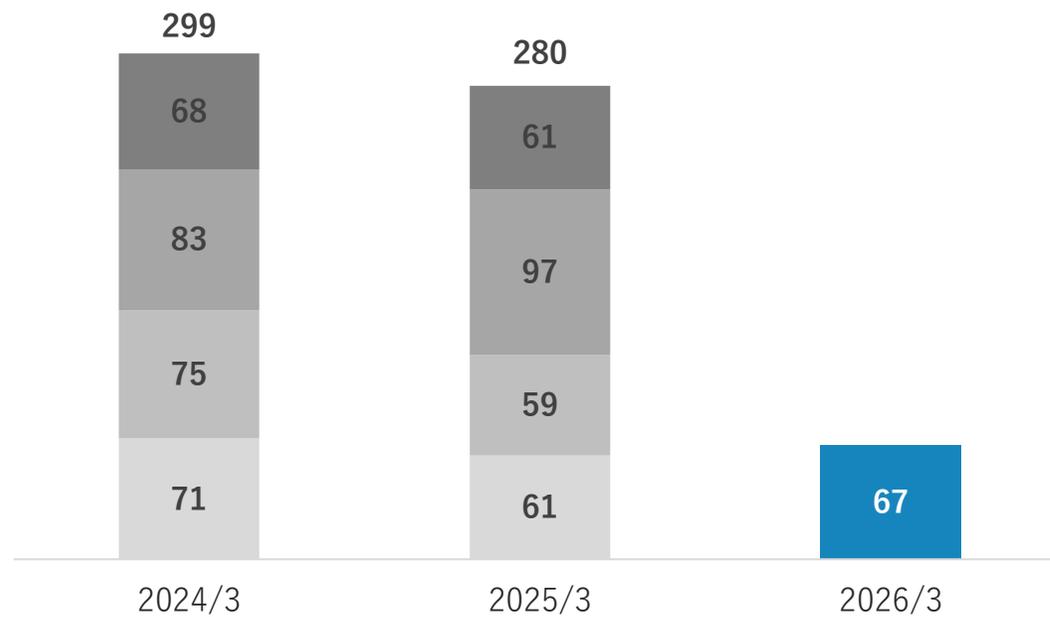
## 4-4. その他の事業－旅館事業－：売上高

### 閑散期ながら集客施策が奏功し増収を確保、 通期業績の達成に向けた新規企画の準備推進

- 当第1四半期は閑散期にあたるものの、効果的なキャンペーンの実施や前期からの顧客の利用時期のずれ込みが寄与し、売上高は前年同期を上回る
- 季節変動に合わせた柔軟な集客施策を継続するとともに、繁忙期の対応準備や、異業種コラボ（庭園での歌舞伎鑑賞）といった新規企画による集客企画も検討を進める

売上高

■ 4Q ■ 3Q  
■ 2Q ■ 1Q

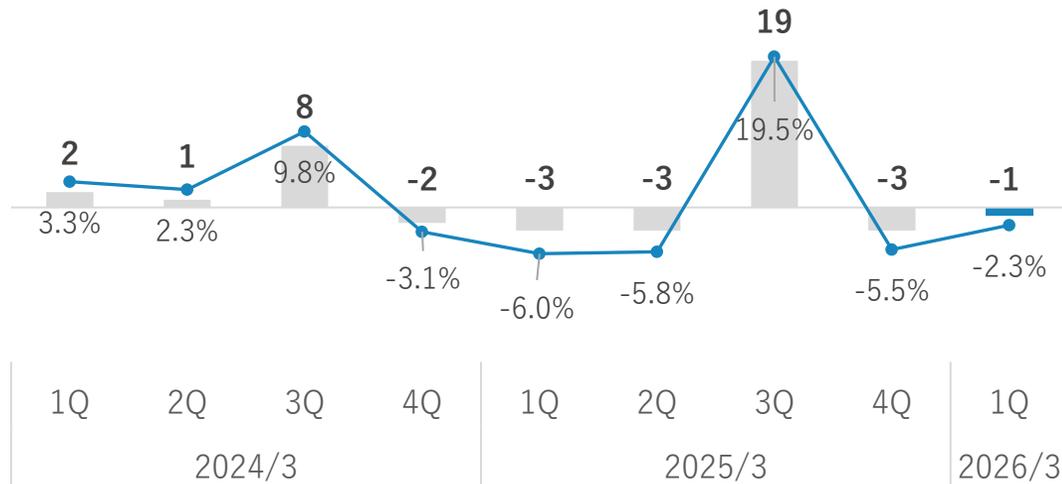


## 4-4. セグメント別概況 - その他事業(旅館事業)：営業利益 会計期間・累計期間

### 徹底したコスト管理で損失幅は縮小、利益は計画通りに推移

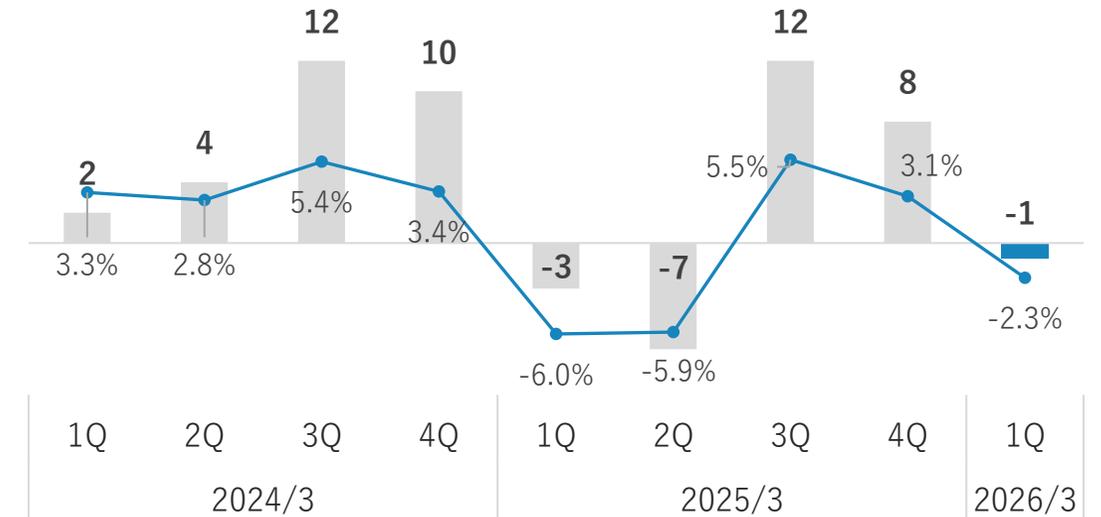
営業利益 会計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



営業利益 累計期間

■ 営業利益 ● 営業利益率



- 継続的なオペレーションの見直しと販管費のコントロールにより、閑散期におけるコストの抑制に努める
- 前期に設備修繕が完了したことで当第1四半期の修繕費は大幅に減少し、収益性の改善に寄与。その結果、営業利益は予算内で順調に進捗

参考資料  
Appendix

# 会社概要

商号	株式会社AKIBAホールディングス（旧株式会社アドテック）
上場市場	東京証券取引所スタンダード（証券コード：6840）
設立	1983年2月17日
資本金	1億円
事業内容	持株会社としてグループ全体の経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査、その他経営管理並びにそれらに付帯する業務
決算期	3月末
役職員数	400名（連結 2025年6月末日）
本社所在地	〒104-0045 東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-6260-6258

役員	代表取締役社長 堀 礼一郎 取締役 CFO 管理本部長 五十嵐 英 取締役 管理本部副本部長 富山 理布 取締役 経営戦略本部長 白鳥 俊昭 取締役（社外） 丸山 一郎 取締役（社外） 黒部 得善 取締役（社外） 後藤田 翔 取締役（社外） 中川 英之 常勤監査役 内藤 城次郎 監査役（社外） 上林 三子雄 監査役（社外） 西田 史朗 補欠監査役（社外） 藤浪 努
会計監査人	KDA監査法人
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

# 沿革

1980年代	1983.2	株式会社アドテックを設立（商号変更により現「株式会社AKIBAホールディングス」）
1990年代	1993.6	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
	1998.11	日本証券業協会に株式を店頭登録
2000年代	2004.12	ジャスダック証券取引所（東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2010年代	2013.5	株式会社エッジクルー（株式会社アキバデバイス）を設立
	2015.1	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収
	2015.10	株式会社AKIBAホールディングスに商号変更、新設分割により株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立、純粋持株会社体制に移行
	2016.3	iconic storage株式会社を買収
	2017.1	株式会社HPCテック（現 連結子会社）を買収
	2019.7	ウェブソリューション事業を株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
2020年代	2020.5	株式会社ダイヤモンドペット&リゾート（旧 株式会社AKIBA LABO福岡）にて新規事業（ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」の運営）開始
	2020.10	ペット同伴温泉旅館「鬼怒川 絆」 グランドオープン
	2020.10	株式会社バディネットが株式会社トランテンエンジニアリングを買収
	2021.4	株式会社バディネットがiconic storage株式会社と株式会社トランテンエンジニアリングを吸収合併
	2021.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を買収
	2022.4	東京証券取引所の市場区分の再編に伴い、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
	2022.10	株式会社アドテックがシーアールボックス株式会社を吸収合併
	2022.11	株式会社バディネットが株式会社リーバンを買収
	2022.12	株式会社エッジクルーから株式会社アキバデバイスに商号変更
	2024.1	株式会社アドテックが株式会社アキバデバイスを吸収合併
2024.4	株式会社バディネットが株式会社ブランチテクノ（現 連結子会社）を買収	
2025.3	株式会社バディネットが株式会社リーバンと吸収合併	

# 企業理念

## Mission

### 持続可能な未来社会をITで実現する

For a sustainable future with IT

## Vision

#### 先端技術の追求

先端技術を追求し、製品、サービスの提供及び経営におけるITの最先端企業となります。

#### 弛みない革新への挑戦

探究、挑戦することを恐れず、忘れず、革新的なデザインとITの力で社会に革新をもたらします。

#### 持続型企業の形成

ITを駆使して、法令を遵守し、持続的成長が可能な企業形成を推進します。

#### 新しい価値の創出

日々刻々と変化する社会において、ITを活用した新しい価値を創出し続けます。

# 事業セグメント及びグループ会社紹介



メモリ・PC関連デバイス・IoT



株式会社アドテック

メモリ及びコンピュータ関連製品・IoTソリューション事業 等

通信建設テック



株式会社バディネット  
株式会社ブランチテクノ

通信建設工事業、通信土木事業、コンタクトセンター事業 等  
※ブランチテクノは2024年4月1日に連結子会社化（2024年6月30日がみなし取得日）  
※バディネットがリーバンを2025年3月31日付で吸収合併



H P C  
(高性能科学技術計算機)



株式会社H P Cテック

高性能計算機の開発・製造及び販売事業

その他（旅館他）

Diamond pets & resort

株式会社ダイヤモンドペット&リゾート

旅館事業、ペット商品事業、IT事業、イベント事業、不動産事業 等

# 2026年3月期の業績予想と各事業の方針・施策

## 【2026年3月期連結業績予想概要】

	2025/3 連結業績 (実績)	2026/3 業績予想	前期比
売上高	18,272	18,900	103.4%
営業利益	716	660	92.2%
経常利益	662	600	90.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	112	400	356.3%

## 【グループ全体及び各事業の方針・施策】

 <b>AKIBA HOLDINGS</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆グループの健全なガバナンス体制の維持</li> <li>◆財政状態の健全・改善推進：ネットCFの黒字化へ向けて利益確保</li> <li>◆成長シナリオの推進：グループの継続的な拡大に向けた基盤構築</li> </ul>
メモリ・PC関連デバイス・IoT 	既存事業の収益改善 新事業領域の開発 経営効率の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>：取扱製品の絞り込み、在庫水準の最適化等</li> <li>：これまでの取り組みの絞り込みと新規領域の開発</li> <li>：コスト見直しの実施、拠点・体制などの見直し</li> </ul>
通信建設テック 	既存事業の戦略的な拡大 新サービス分野への挑戦 再エネ関連工事の拡大 <ul style="list-style-type: none"> <li>：カメラ・ロボット関連等対応許可、組織体制整備</li> <li>：既存事業をベースにした新サービスへの挑戦実施</li> <li>：リーバンとの合併による再エネ関連の全国展開</li> </ul>
HPC(高性能科学技術計算機) 	AI分野の提案内容拡大 新製品用の水冷製品開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>：生成AI分野でお客様への提案内容の拡大</li> <li>：CPU TDP500W,GPU TDP 600Wに向けた水冷サーバ・水冷環境の開発</li> </ul>
その他(旅館他) 	インバウンド顧客獲得 特色を活かした取り組み 不動産事業の開始 <ul style="list-style-type: none"> <li>：海外向けの集客メディア掲載で海外顧客獲得</li> <li>：季節感を打ち出したイベント・新メニュー開発</li> <li>：適切な案件実施により、収益機会の獲得</li> </ul>

# 財務情報（業績、経営指標の推移等）

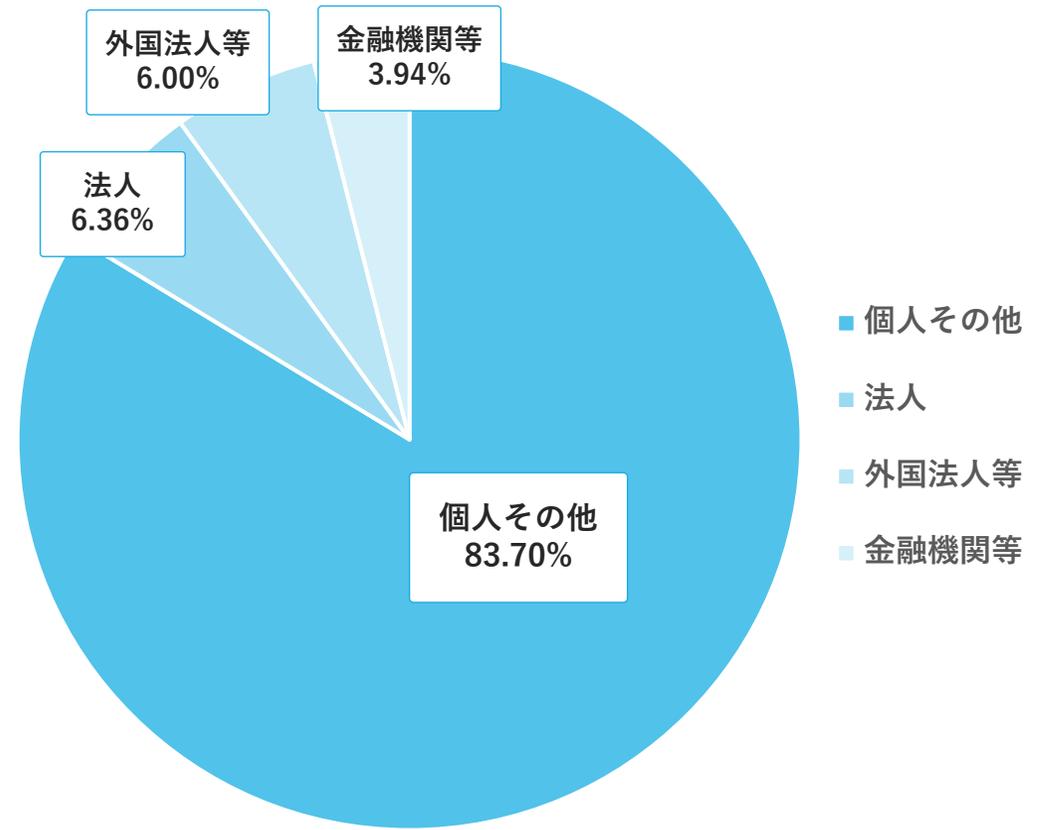
	第38期	第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高(千円)	12,574,151	14,742,554	16,166,841	15,007,149	15,848,974	18,272,045
経常利益(千円)	636,377	682,843	711,268	1,031,089	844,773	662,301
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	654,580	345,839	382,352	702,077	292,567	112,268
包括利益(千円)	702,237	396,663	426,161	753,768	367,902	183,053
純資産額(千円)	1,850,742	2,247,178	2,673,308	3,427,077	3,794,979	3,978,033
総資産額(千円)	6,958,007	8,380,543	9,177,714	10,136,167	11,468,317	13,627,886
1株当たり純資産額(円)	184.75	222.36	264.45	340.36	372.31	384.53
1株当たり当期純利益金額(円)	71.25	37.65	41.62	76.44	31.85	12.22
自己資本比率(%)	24.4	24.4	26.5	30.8	29.8	25.9
自己資本利益率(%)	47.8	18.5	17.1	25.3	8.9	3.2
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	△246,303	948,655	△147,249	△20,468	△40,663	△374,342
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	366,840	△183,351	△112,089	△393,662	△212,897	△108,877
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	881,034	396,249	253,343	81,518	971,043	1,696,024
現金及び現金同等物の期末残高(千円)	2,571,439	3,732,992	3,728,478	3,396,300	4,113,909	5,325,760
従業員数（外、平均臨時雇用者数）(人)	126(97)	164(73)	196(97)	221(119)	241(128)	266(105)

# 株式情報：株式基本情報、株主構成等

## 【株式基本情報】

上場証券取引所：東京証券取引所スタンダード市場  
証券コード：6840  
発行可能株式総数：27,328,000株  
発行済株式総数：9,192,560株  
単元株式数：100株  
株主名簿管理人：東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
みずほ信託銀行株式会社

## 【株主構成：2025年3月末時点】





# AKIBA HOLDINGS

本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報及び当該情報に基づく過程に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見直し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません。